

1. 柴田さんの卒業研究

卒業論文では、生息している生物は

適応度が高いからだと考えていましたが、そんな発想が私にはなかったので凄く異見だと思いました。

「オニカラスムギ」が乾燥運動をする時、小粒が2つであることにより、シヤツカが出て、遠くまで種をばらまいていることにおどろかされた。

卒業論文を見て、植物は人間がたいてい考えるわけでもないのに、「生存戦略」というものがあることが不思議だと思った。「生き物の本能」が付いてくるのだろうか。

今回の講義で2つの事を感じた。1日目、2日目、柴田さんの卒業研究をする上での思考が、すばらしいと感じた。

卒業論文の中でも、科学のABCを使っていろいろの講義で「学んできた」とか「生かされていくオニカラスムギ」について

卒業研究を聞いて、科学のABCを何回も用いて答えたように感じているので、過程がわかりやすかった。

1つのABCで完結するものではなく、仮説が支持されなかった場合に新たな仮説に対する検証を行った。リなど、次々とABCが連鎖することで正解に近づいていくものなのだなと思った。最初のカラスムギの話もまた、科学のABCの考えに沿って行われ、それが連鎖して結論を導いたものだ。

まず、オニカラスムギの、また、もっと広げていけば、生物の巧みな仕組みに感嘆すると思います。動物も含め、生物にはいろいろな仕組みがうまく備わっています。昔は神様の仕業だと思っていたことを、今では進化によって説明しようとするわけですね。「本能」という意味が、進化によって身についた性質、という意味であるなら、その通りでしょう。

仮説と検証というスタイルは、単に合理的な考え方である、というだけでなく、人に伝えるときに効果的に伝わる方法である、ということも示してくれているいい例だと思います！

皆さんもゼミ論・卒研のときに参考にしてください！

2. センメルヴェイス

もし助産師が消毒をしない場合、結果はどうなっていくのだろうか。

センメルヴェイスの仮説検証はほんと興味深かった。医師の方で死亡率の高いのはなぜかと不思議に講義を聞いていたが、結果に驚いた。

また、その仮説検証が当たったにも関わらず、理解されないというのが悲しい。考察するのにも頭を使うけど、それを世に伝えるのも難しいと思った。

センメルヴェイスは病院の問題を突き止め、死亡率を劇的に下げたにもかかわらず、医師たちのプライドを傷つけたとして殺されてしまったのはあまりにもかわいそうだった。90年代の人にとってその仮説が非常に受け入れやすいとは限らないうことが理解できた。

フランス革命直後に成された世界初の法

教育ではイカサマばかりでいい非科学(科学を知らない人)が中心でオカルトにハマる人が多かった。科学と信仰を併存することに重きが置かれたが、現代でも反対論が出ていない方に思えて残念です。目指します。そのために、合理的に考えられるトレーニングが必要です。私たちはそうしていきましょう！

第2産院を担当した助産婦も、手を消毒しなかったと思います。問題は、医者には、助産婦がしない死体の解剖等をしていたことです。

まず、皆さんは口語表現法のような授業を受けてきましたので、人に伝える練習はできているでしょう。加えて、理性で合理的に考える習慣を(社会全体で)身に付けていくべきだと思います。科学のABCの方法は合理的です。社会は、人が合理的な判断ができるという前提でできています。こんな事件が起こらない社会にしましょう。

学群の名称「リベラルアーツ」は、オカルトも含む、思い込み等から自由になることを

